

<特集「受動表現」>

チヨネチベット語扎古録方言における受動表現 Passive Expression in the Bragkhoglung dialect of Cone Tibetan

¹鈴木 博之, ²鄒 玉霞
Hiroyuki Suzuki, Yuxia Zou

¹京都大学国際高等教育院
ILAS, Kyoto University
²独立研究者
independent scholar

要旨: 本稿では、特集「受動表現」(『語学研究所論集』第 14 号, 2009, 東京外国語大学)における調査票の 10 項目について、チヨネチベット語扎古録[Bragkhoglung]方言のデータを記述し、その分析を行う。

Abstract: This report describes and analyses the data of the Bragkhoglung dialect of Cone Tibetan concerning the ten phrases for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 14, which focuses on the cross-linguistic study of ‘passive expressions’.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002000394>

キーワード: 受身, 語順, アラインメント

Keywords: passive, word order, alignment

1. はじめに

チヨネチベット語は、Tournadre and Suzuki (2023)の分類における東チベット諸語 (Eastern section) の 1 つに数えられる。中国の先行研究では「カム方言」に分類される。中国甘肅省甘南チベット族自治州卓尼県を主たる語域とする。本稿で記述するのは、同県扎古録郷で話される変種 (扎古録方言) で、第 2 著者の母語である。扎古録方言の記述は第 1, 第 2 著者とも独立した記述 (鈴木 2012 ; 鄒玉霞 2021) と共著 (Zou and Suzuki 2022; Suzuki and Zou 2024) があるが、音韻分析がそれぞれ異なる立場から行われている。本稿の記述は鈴木(2012)のものに統一する。

本稿での記述は、両著者による SNS (WeChat) を介したやり取りに基づく。著者間で定めた扎古録方言のチベット文字表記 (Zou and Suzuki 2022) をもとに、漢語の調査票から扎古録方言へ訳し、それを音韻表記に戻して確認するという方法で進めた。両著者とも記述言語学の訓練を受けており、国際音声字母も理解するが、その運用に少なくない差異がある。このため、チベット文字を介した方式を採用した。調査票はすでに用意のあった漢語版を用いた。日本語の調査票や海老原, 拉加本(2022)の記述を参考にし、その調査意図を理解しつつ、調査時に得られた表現についてさらに議論した部分もある。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

2. データ

以下、「受動表現」(『語学研究所論集』第14号)に関する例文に対応するチョネチベット語扎古録方言のデータを提示する。各例文について、見出しを調査票の例文形式とし、続いて(A)扎古録方言の音韻表記、(B)英語による語釈、(C)チベット文字表記(口語を反映したつづり字)、(D)(C)の翻字(de Nebesky-Wojkowitz方式)、(E)例文に対する日本語訳の順で記す。必要な個所には、(E)に続いて解説を添える。

なお、扎古録方言には受動態を示す形態統語的手段がなく、語順の違いで現れる。このため、(E)は日本語として不自然であっても、(A)が表す形式にできるだけ忠実に対応するように訳す。

(1) A は B に叩かれた。【直接受身】

$\bar{t}\bar{a}$ $\text{ʂ}^{\text{h}}\text{i}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{o}:$ ma- $\text{y}\bar{o}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{u}:$ -tə zə
PSN PSN-ERG hit-PFT.STM

བཀ་ཤིས་སྒོལ་མ་འི་བརྟུངས་ད་ཟིག

bkra shis sgrol ma 'i brdungs da zig

「タシはドマが叩いた」

調査票にある受け身の形式に相当する表現は、被動者が行為者に先行して現れることによって表される。本稿では初頭の項を主題として考える立場をとる。このため、「受け身」は被動者が主題になる表現と言える。ただし、以下(10-2, 10-3)に見るように、被動者が行為者に先行して現れることと受け身が対応するとは限らない。

(2) A は B に足を踏まれた。【持ち主の受身、体の部分】

a. $\bar{t}\bar{a}$ $\text{ʂ}^{\text{h}}\text{i}$ $^{\text{h}}\text{k}\bar{a}$ wa $\bar{r}\bar{g}\bar{o}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{o}:$ ma $\bar{m}\bar{a}$ $\text{ʂ}^{\text{h}}\text{ej}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{o}\bar{u}\bar{y}$ ha- $\text{y}\bar{a}$ tə zə
PSN foot surface PSN unintentionally step-PFT.STM

བཀ་ཤིས་རྒྱང་བ་དོ་སྒོལ་མ་མ་ཤིས་འི་དོག་ཏུ་བཞག་ད་ཟིག

bkra shis rkang ba ngo sgrol ma ma shes 'i rdog ha bzhag da zig

「タシは足の上をドマが無意識のうちに踏んだ」

b. $\bar{t}\bar{a}$ $\text{ʂ}^{\text{h}}\text{i}$ $^{\text{h}}\text{k}\bar{a}$ wa $\bar{r}\bar{g}\bar{o}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{o}:$ ma- $\text{y}\bar{o}$ $^{\text{h}}\text{d}\bar{o}\bar{u}\bar{y}$ ha- $\text{y}\bar{a}$ tə zə
PSN foot surface PSN-ERG step-PFT.STM

བཀ་ཤིས་རྒྱང་བ་དོ་སྒོལ་མ་འི་དོག་ཏུ་བཞག་ད་ཟིག

bkra shis rkang ba ngo sgrol ma 'i rdog ha bzhag da zig

「タシは足の上をドマが(意図して)踏んだ」

(2a, b)とも、「タシ」が主題となっている。「タシ」と「足」は属格で結ばれていないため、両者は1つの名詞句とは考えず、象鼻構文に類似する表現ととらえる。(2a, b)間の差異は、漢語の調査票の差異を意志性に基づくものと判断し、(2a)は無意識に起きた動作、(2b)は意図的に起こした動作ととらえる。(2a)の場合、行為者に能格標識を伴わないことに注目できる。

- (3) A は B に財布を盗まれた。【持ち主の受身, 持ち物】

^hʈa ʂʰi-γə ^hgo kʰuuɣ ^hdø: ma-γə ^hkɯ-kə ʂʰo:-zə
 PSN-ERG wallet PSN-ERG steal-NML go.PF-AOR.STM
 བླ་མེས་འི་སྐོར་ཁྱུ་མ་འི་རུ་གི་སྐོར་བྱེག
 bkra shis 'i sgor khug sgrol ma 'i rku gi song zig
 「タシの財布はドマが盗んでいった」

- (4) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。【自動詞からの間接受身】

^hdo ^hgo: ʂa ri 'ŋi:-nə 'ŋa 'ha ^hge ^hni 'ma-louɣ-ti
 yesternight child cry.PF-CONJ 1SG indeed fall asleep NEG-STEM-PFT.SEN
 མདང་དགོང་ཕྱི་ལོ་ལྷོ་མ་འི་ཉམ་གཞི་མ་ལོག་དུས།
 mdang dgong byis re ngus ni nga ha sger gnyid ma log dus/
 「昨日の夜, 赤ん坊が泣いて, 私は本当に眠りに落ちることがなかった」

(4)の「眠りに落ちる」という動詞は, 内的感覚 (endopathic) 動詞に分類される (動詞の分類については, Tournadre and Suzuki 2023 参照) ため, 感知の証拠性標識をとる.

- (5) 大きいビルが (A によって) 建てられた。【モノ主語受身, 一回的】

^hʈa ʂʰi-γə ʈouɣ ʈʂʰə ŋa-zə ^mbi:-tə zə
 PSN-ERG building big-NDEF make-PFT.STM
 བླ་མེས་འི་ལོ་འི་(ལོ) ཆེན་མོ་ལྷོ་མ་འི་སྐོར་བྱེག
 bkra shis 'i lo'i chen nga zig 'bigs da zig
 「タシが大きいビルを建てた」

- (6) カナダではフランス語が話されている。【モノ主語受身, 恒常的. 動作主が問題にならない場合】

^hkʰa na ta-γə ʈni ^hgu: gɛ ko lo-γə ʈfa rā si:-γə ^hkej ʈʂʰa ʈʂej-γə ^hna:
 Canada-GEN person all-ERG France-GEN speech tell-PROG.SEN
 ཁ་ན་ཏའི་མི་ཀུན་གྱི་ལོ་ལོ་སྐོར་བྱེག་སྐོར་མ་ལོག་གི་སྐོར་བྱེག
 kha na ta 'i mi kun go lo gi h+pha ran si 'i skad cha bshad gi snang/
 「カナダの人は皆フランスの言葉を話している」

(5, 6)は非生物が主題となる受け身である。この場合, 当該の名詞句が主題を占めることはまれで, 行為者が主題となるのが通例であり, 受け身に対応する語順では通常現れない。(6)では, 調査票の文頭にくる地点を表す名詞句が行為者の修飾句として現れ, 文中で独立した名詞句を形成しないのが通例であると判断される。

- (7) 財布が (A に) 盗まれた. 【モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される】

^hgo k^huuꞥ ꞥta ꞥ^hi-ꞥə ^hkuu-kə ꞥs^ho:-zə
 wallet PSN-ERG steal-NML go.PF-AOR.STM
 སྒོར་ཁུག་བྲག་ཤིས་ཀྱི་རུ་གི་སྒང་ཟེག
 sgor khug bkra shis 'i rku gi song zig
 「財布はタシが盗んでいった」

- (8) 壁に絵が掛けられている. 【モノ主語受身, 結果状態の叙述】

^hk^ha-ꞥə ꞥŋo-na 'rə mo-zə ^hka:-ꞥə kə
 wall-GEN surface-LOC picture-NDEF hang-STA.STM
 མཁར་གྱི་ངོ་ན་རི་མོ་ཟེག་བྲག་ལ་བཞག་གི
 mkhar gi ngo na ri mo zig bkal bzhag gi
 「壁に絵が掛かっている」

(8)は漢語の調査票では受け身の形式をとらない. 扎古録方言においても自動詞によって表される.

- (9) A は B に/から愛されている. 【感情述語の受身, 特に動作主のマーカ-に注目】

^hdø: ma ꞥta ꞥ^hi-le ^hga-fi
 PSN PSN-DAT love-STA.SEN
 སྒོ་ལ་མ་བྲག་ཤིས་ལས་དགའ་ལོ
 sgrol ma bkra shis las dga' 'e/
 「ドマはタシを愛している」

(9)の「愛する」という動詞は感情動詞であり, 感情を抱く主体は絶対格で, 感情の向く対象は与格で標示される. この場合, 与格で標示される名詞句が文頭におかれることは通例認められない.

- (10-1) A は B に/から「...」と言われた. 【伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカ-に注目】

^hdø: ma-ꞥə ꞥta ꞥ^hi-le
 PSN-ERG PSN-DAT
 སྒོ་ལ་མ་ཀྱི་བྲག་ཤིས་ལས་: “...”
 sgrol ma 'i bkra shis las
 「ドマがタシに (言うことには「...」)」

(10-1)は直接話法による日常的な表現である. 「言う」という動詞の格支配に基づいて, 発話者には能格標識を, 聞き手には与格標識を付加するが, 「言う」に相当する動詞は発話そのものに現れないことが多い. 一方, 引用文の末尾に引用証拠性の接辞を付加して, 引用であることを明示的に行うことができる (Zou and Suzuki 2022:14 参照).

(10-2) A さんは B さんに呼ばれて, 今 B さんの部屋に行っています.

'h̥d̥e: ma-γə ʔa ʂʰi 'pej-nə 'pi:-sʰo: zə
 PSN-ERG PSN call-CONJ go out-TRANS.AOR
 'ta rə 'h̥d̥e: ma-γə 'ŋkʰwa: 'nã-na ʰnã gə
 at the moment PSN-GEN room inside-LOC EXST.SEN
 སྒོལ་མ་འི་བྲག་ཤིས་བོས་ནི་བུད་སང་ཟིག ད་རུང་སྒོལ་མ་འི་ཁང་བ་ནང་ན་སྤང་གི
 sgröl ma 'i bkra shis bos ni bud song zig da rung sgröl ma 'i khang ba nang na snang gi
 「ドマがタシを呼んで出ていった。それで今ドマの部屋にいる」

(10-2)の文は, 統語論的にあいまいな読みになるように見える。ところが, 第1文の主題である「ドマ」には能格標識がついて, 1つめの2項動作動詞「呼ぶ」の行為者を表す。ところが, 2つめの動詞は1項動作動詞「出ていく」で, 行為者は絶対格である必要がある。このため, 「出ていく」主体は1つめの動詞の被動者「タシ」という読みが成立する。続く第2文には行為者が現れていないが, 通常先行する動詞の行為者を補って理解されるので, 第2文の行為者は「タシ」という読みが成立する。

(10-3) B さんが A さん呼んで, A さんは今 B さんの部屋に行っています.

'h̥d̥e: ma-γə ʔa ʂʰi 'pej-tə zə
 PSN-ERG PSN call-PFT.STM
 ʔa ʂʰi 'ta rə 'h̥d̥e: ma-γə 'ŋkʰwa: 'nã-na ʰnã gə
 PSN at the moment PSN-GEN room inside-LOC EXST.SEN
 སྒོལ་མ་འི་བྲག་ཤིས་བོས་ད་ཟིག བྲག་ཤིས་ད་རུང་སྒོལ་མ་འི་ཁང་བ་ནང་ན་སྤང་གི
 sgröl ma 'i bkra shis bos da zig bkra shis da rung sgröl ma 'i khang ba nang na snang gi/
 「ドマがタシを呼んだ。タシはそれで今ドマの部屋にいる」

略号一覧

-	形態素境界
1	1人称
AOR	アオリスト
CONJ	接続詞
DAT	与格
ERG	能格
EXST	存在動詞
GEN	属格
LOC	位格
NDEF	不定標識
NEG	否定
NML	名詞化標識
PF	完了形
PFT	完了

PROG	進行・持続
PSN	人名
SEN	感知
SG	単数
STA	状態
STEM	複音節動詞の語幹
STM	断定
TRANS	離心

参考文献

欧文

- Suzuki, Hiroyuki and Yuxia Zou. 2024. Writing oral varieties with Tibetan script: A case study on Cone Tibetan. *Études mongoles et sibériennes, centrasiatiques et tibétaines*. In press.
- Tournadre, Nicolas and Hiroyuki Suzuki. 2023. *The Tibetic languages: An introduction to the family of languages derived from Old Tibetan*. Villejuif: LACITO Publications. <https://doi.org/10.5281/zenodo.10026628>
- Zou, Yuxia and Hiroyuki Suzuki. 2022. Five folktales in Bragkhoglung Tibetan of Cone. *Himalayan Linguistics Archive* 11: 1–85. <https://doi.org/10.5070/H90052025>

和文・中文

- 海老原志穂，拉加本. 2022. 「アムド・チベット語の受動表現」『語学研究所論集』27: 753–758. <https://doi.org/10.15026/125163>
- 鈴木博之. 2012. 「甘肅省甘南州卓尼県のチベット語方言について：蔵文対応形式から見た扎古録 [Bragkhoglung]方言の方言特徴」『京都大学言語学研究』31: 1–23. <https://doi.org/10.14989/182195>
- 鄒玉霞. 2021. 〈藏語卓尼話語音的歷史演變研究〉中央民族大学碩士論文.

執筆連絡先：minibutasan[at]gmail.com, 2062315486[at]qq.com

原稿受理日：2023年12月26日